I | 映画館での上映

2

公開本数・公開作品

公開本数

映画の公開本数は、1955年以降2004年までは大体550-650本を推移してきたが、デジタル化の進行とともに増加し続け、2013年には日本映画、外国映画とも500本以上が公開され、公開本数は1000本を越えた。2019年、公開本数は1278本に達し、コロナ禍の2020年も1017本が公開され、2021年は1000本をわずかに割り込んだものの、2022年には再び増加に転じ、1143本公開、2023年はコロナ前の2019年とほぼ同水準の1232本が公開されている(映連発表数値)。日本映画の公開本数は676本、外国映画は556本となり、コロナ以前の水準に戻っている。

→fig.07

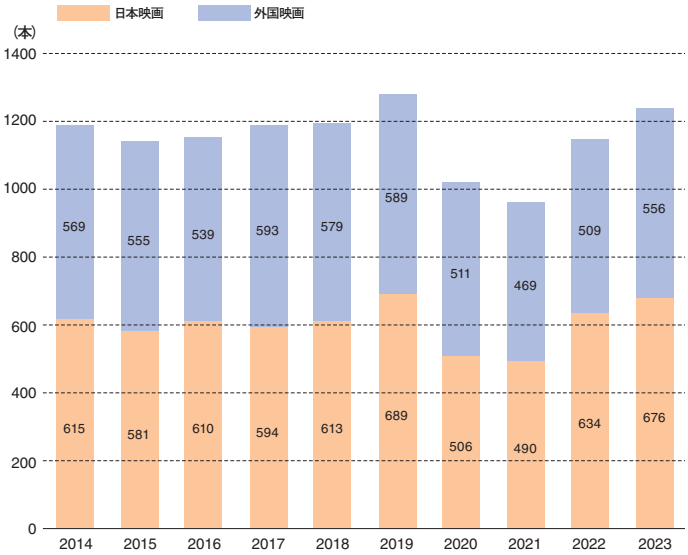
興行収入

2023年の興行収入は、日本映画が1481億8100万円(前年比101.1%)、外国映画が733億100万円(前年比110.2%)、合計2214億8200万円で、前年を3.9%上回っている。

非常に好調だった2019年の2611億8000万円には及ばないものの2018年(2225億1100万円)とほぼ同水準となっており、10年前の2014年(2070億3400万円)を大きく上回っている。日本映画製作者連盟は、2024年1月末の「映画産業統計」の発表会見において「ほぼ新型コロナウイルス禍前の水準に戻った」としている。

日本映画と外国映画の興収の割合は、日本映画66.9%に対して外国映画33.1%で、依然として外国映画のシェアの低迷が続いている。2018-2019年は外国映画のシェアは

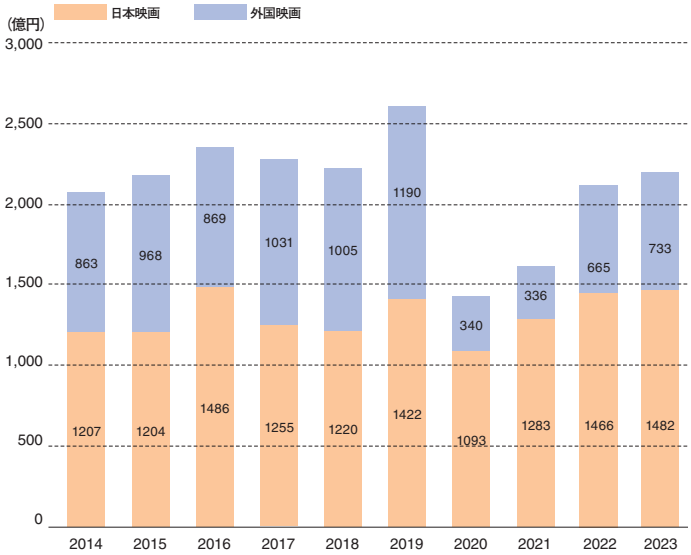
fig.07 公開本数の推移(2014-2023)



	公開本数			シェア	
	日本映画	外国映画	合計	日本映画	外国映画
2014	615	569	1,184	51.9%	48.1%
2015	581	555	1,136	51.1%	48.9%
2016	610	539	1,149	53.1%	46.9%
2017	594	593	1,187	50.0%	50.0%
2018	613	579	1,192	51.4%	48.6%
2019	689	589	1,278	53.9%	46.1%
2020	506	511	1,017	49.8%	50.2%
2021	490	469	959	51.1%	48.9%
2022	634	509	1,143	55.5%	44.5%
2023	**676**	**556**	**1,232**	**54.9%**	**45.1%**

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

fig.08 興行収入の推移(2014-2023)



	興行収入(億円)			シェア	
	日本映画	外国映画	合計	日本映画	外国映画
2014	1,207.15	863.19	2,070.34	58.3%	41.7%
2015	1,203.67	967.52	2,171.19	55.4%	44.6%
2016	1,486.08	869.00	2,355.08	63.1%	36.9%
2017	1,254.83	1,030.89	2,285.72	54.9%	45.1%
2018	1,220.29	1,004.82	2,225.11	54.8%	45.2%
2019	1,421.92	1,189.88	2,611.80	54.4%	45.6%
2020	1,092.76	340.09	1,432.85	76.3%	23.7%
2021	1,283.39	335.54	1,618.93	79.3%	20.7%
2022	1,465.79	665.32	2,131.11	68.8%	31.2%
2023	**1,481.81**	**733.01**	**2,214.82**	**66.9%**	**33.1%**

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

45%以上であった。

→fig.08, fig.09

公開規模

コミュニティシネマセンターではネット上に掲載された情報等を元に独自に「公開作品リスト」を作成している。2023年の公開本数は日本映画656本、外国映画634本、合計1290本（都内1-2館特集上映のみでの公開作品を含めると1465本）という数値を得ている。映連発表の数値は、日本映画676本、外国映画556本、計1230本（ODSを加えると1431本）となっている。多少の齟齬があるが、以下では、こちらで得たデータを元に公開作品の中味を見てみる。

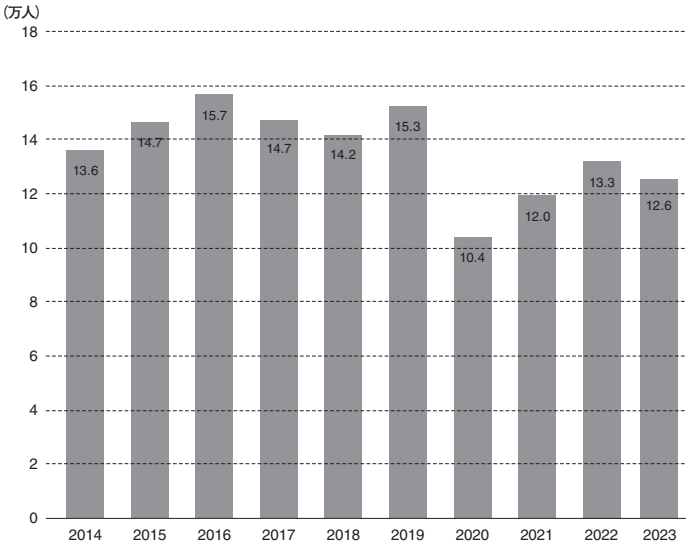
公開規模

「300館以上」の映画館で公開されたのは、日本映画59本、外国映画30本となっている。日本映画では、興行収入が100億円を越えた『THE FIRST SLAM DUNK』（2022年12月）、『名探偵コナン 黒鉄の魚影』（4月）や、『君たちはどう生きるか』（7月）、『映画ドラえもん のび太と空の理想郷（ユートピア）』（3月）、『「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ』（2月）と12月に公開された『劇場版SPY×FAMILY CODE: White』のアニメーション6作品と、劇映画でアカデミー賞視覚効果賞、日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した『ゴジラ－1.0』（11月）、それに人気シリーズで大ヒットした『キングダム 運命の炎』（7月）、『レジェンド&バタフライ』（1月）、『シン・仮面ライダー』（3月）、『翔んで埼玉 琵琶湖より愛をこめて』（11月）が370館以上の大規模公開となっている。

このほか、劇映画では、『劇場版TOKYO MER 走る緊急救命室』、『ミステリと言う勿れ』といったテレビドラマの映画化作品が360館を越える映画館で公開され40億円を越えるヒットを記録している。また、カンヌ国際映画祭で受賞した是枝裕和監督『怪物』や、北野武監督6年ぶりの新作『首』、東京国際映画祭オープニングを飾った『ラーゲリより愛を込めて』（2022年12月）なども300館以上で公開され、多くの観客を集めている。

アニメーションでは、幅広い客層をターゲットにした『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』（11月）、『かがみの孤城』（2022年12月）、『BLUE GIANT』（2月）『映画 窓ぎわのトットちゃん』（11月）なども多くの映画館で公開されている。

fig.09 1作品当たりの観客数の推移（2013-2022）



	公開本数（本）	観客者数（千人）	1作品当たりの観客数	前年比
2014	1,184	161,116	136,078	-3,482
2015	1,136	166,630	146,681	10,604
2016	1,149	180,189	156,822	10,141
2017	1,187	174,483	146,995	-9,828
2018	1,192	169,210	141,955	-5,040
2019	1,278	194,910	152,512	10,557
2020	1,017	106,137	104,363	-48,149
2021	959	114,818	119,727	15,364
2022	1,143	152,005	132,988	13,261
2023	**1,232**	**155,535**	**126,246**	**-6,742**

—「日本映画産業統計」（日本映画製作者連盟）参照

外国映画では、4月に公開された『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』が140.2億円の大ヒットとなった。また、昨年の『トップガン・マーヴェリック』に続き、トム・クルーズ主演の『ミッション：インポッシブル／デッドレコニング PART ONE』が380を越える映画館で公開され、映画館離れが懸念される中高年層を含む幅広い客層を集めて54.3億円の大ヒットとなった。『ワイルド・スピード/ファイヤーブースト』(5月)、『インディ・ジョーンズと運命のダイヤル』(6月)、『ジョン・ウィック：コンセクエンス』(9月)といった人気シリーズの最新作が公開されて話題をよんだ。また、『リトル・マーメイド』(6月)の実写版やアニメーション『スパイダーマンアクロス・ザ・スパイダーバース』も多くの観客を集めた。

2020年以降、シネコンはそれまで上映しなかった多様な作品を上映するようになった。また、コロナ以前の2019年までは150館以上で大規模公開される作品のほとんどは「シネコンのみ」で上映されていたが、2021年以降はシネコン以外の映画館、ミニシアターでも上映されることが増えている。つまり、コロナ禍以降の傾向として、シネマコンプレックスとミニシアターの両方で公開される作品が増えたということがある。シネコンとミニシアターの両方で公開される作品は、2019年は日本映画で104本(18%)、外国映画では125本(24%)だったが、2023年は日本映画で208本(32%)、外国映画は302本(48%)と倍増している。シネコンの上映作品の多様化が進んだ一方で、ミニシアターではシネコンでの公開から多少遅れても集客が見込める話題作を上映するようになり、上映作品の明確な線引きはなくなりつつある。

そのような状況でも、ミニシアターでしか上映されない作品のパーセンテージはあまり変化していない。「49館以下」の小規模公開作品は日本映画で431本、外国映画でも431本である。これらの作品のうち、日本映画で268本、外国映画で222本、計490本(38%)がミニシアターのみでの公開となっている。
ミニシアターでしか上映されない小規模作品の中には、国際映画祭等で高い評価を得た作品や、世界的巨匠の作品、重要なドキュメンタリー映画、多くの若い作り手たちの野心的な作品が含まれている。また、2021-2022年に行われた文化庁の「ARTS for the future!」(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)による支援を受けて制作された数多くの作品が含まれている。(2022-2023年の日本映画の公開本数が538本から656本と100本以上増えている背景にはAFFによる支援により多数の作品が制作されたことがあると推測される)
後述する旧作のデジタルリマスター版のリバイバル上映や監督の特集上映なども、そのほとんどが、ミニシアターのみで上映されている。
→fig.10

公開作品の種類

2023年の日本映画の公開本数は656本となり、コロナ前の2019年(577本)を上回っている。その内訳をみると、劇映画の新作が384本(26増)、アニメーション新作が93本(8増)、ドキュメンタリー映画が84本(7増)、公演やライブ等のODSが18本、特集上映(旧作のデジタルリマスター版含む)が72本となっている。
前述のように、2023年もアニメーション(『THE FIRST SLAM DUNK』、『名探偵コナン 黒鉄の魚影』『君たちはどう生きるか』等)が圧倒的な集客力を見せつける結果となっている。アニメーションは93本が公開され、「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」「鬼滅の刃」「プリキュア」「スすみっコぐらし」といった人気シリーズは大規模公開され、多くの観客を集めている。また、近年では、幅広い年齢層をターゲットとする『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』、『かがみの孤城』、『BLUE GIANT』、『劇場版シティーハンター天使の涙(エンジェルダスト)』、『アリスとテレスのまぼろし工場』のような作品も数多く公開され、着実に観客を集めている。こういった長編のアニメーションを対象とする映画祭「新潟国際アニメーション映画祭」が2023年に始まり、注目を集めている。また、2023年は「機動戦士ガンダムSPEEDスペシャルエディション」シリーズ4作品が上映されたことも話題を集めた。
劇映画では、前述の大規模公開作品に加え、『福田村事件』(9月)、『月』(10月)、内外の映画祭で高い評価を受けた『せかいのおきく』(4月)、『ほかげ』(8月)、『ケイコ目を澄ませて』(2022年12月)などが、ミニシアター、シネコンの両方で上映され、多くの観客を集めた。『茶飲友達』『バカ塗りの娘』『エゴイスト』『市子』『遠いところ』『さよなら ほやマン』等々といった若い作り手の作品も注目されている。
384本の劇映画の中、60%以上を占める249本が49館以下の小規模公開作品であり、そのほとんどがミニシアターのみで上映されている。
2022年も多くのドキュメンタリー映画が劇場公開された。公開された84作品のうち、63作品がミニシアターのみで上映されている。他方、全国30館以上での公開となった作品も20本に上り、シネマコンプレックスで上映される作品も増えており、映画館でのドキュメンタリー映画の上映が定着していることをうかがわせる。
日本映画の旧作の特集上映(デジタルリマスター版による)も増えており、2023年は8企画72本が上映された。「私立探偵濱マイク三部作」や、鈴木清順監督「浪漫三部作」を上映する「SEIJUN RETURNSin4K」は多くの映画館で上映された。

外国映画は、2023年は634本が公開され、公開本数はコロナ前の2019年(514本)を大きく上回っている。内訳は、劇映画の新作が304本、アニメーションの新作が25本、ドキュメンタリー映画55本、ODS53本、旧作デジタルリマスター版のリバイバル公開が43本、旧作の特集上映が26企画(154本)となっている。旧作のデジタルリマスター版では『タイタニック』(ジェームズ・キャメロン25周年3Dリマスター)が200館を越える映画館で公開され、10億円を越える興行収入を上げている。
2022年に続き、2023年も旧作の特集上映が盛り上がった。2022年の22企画を上回る26企画で154本もの映画が上映されている。

fig.10 2023年に映画館で公開された作品の公開規模

日本映画

公開館数	2023		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2022		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2020		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2019		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ
300館以上	59	9%	54	5	0	63	12%	57	6	0	34	8%	34	0	0	43	7%	43	0	0
150～299館	42	6%	27	15	0	45	8%	28	17	0	34	8%	26	8	0	39	7%	38	1	0
100～149館	34	5%	14	20	0	35	7%	13	22	0	35	8%	20	15	0	47	8%	28	19	0
70～99館	39	6%	20	19	0	39	7%	18	21	0	32	7%	17	15	0	32	6%	16	14	2
50～69館	51	8%	20	29	2	42	8%	12	26	4	37	8%	16	17	4	42	7%	22	16	4
30～49館	64	10%	10	47	7	73	14%	18	38	17	49	11%	12	21	16	55	10%	28	15	12
10～29館	169	26%	19	45	105	118	22%	18	24	76	89	20%	18	13	58	125	22%	42	21	62
2～9館	198	30%	14	28	156	123	23%	7	15	101	130	30%	12	6	112	194	34%	13	18	163
公開本数合計①	**656**	100%	178	208	270	**538**	100%	171	169	198	**440**		155	95	190	**577**		230	104	243
			27%	32%	41%			32%	31%	37%			35%	22%	43%			40%	18%	42%
49館以下で公開された作品本数	431					314					268					374				
うちミニシアターのみでの上映作品	268	62%				194	62%				186	69%				237	63%			
その他（東京1館のみでの公開など）	86					101					42					73				
日本映画公開本数合計	**742**					**639**					**482**					**650**				

外国映画

公開館数	2023		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2021		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2020		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ	2019		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ
300館以上	30	5%	29	1	0	29	5%	27	2	0	14	3%	14	0	0	32	6%	32	0	0
150～299館	26	4%	21	5	0	23	4%	13	10	0	13	3%	11	2	0	18	4%	16	2	0
70～149館	66	10%	13	53	0	50	8%	5	45	0	48	12%	9	35	4	42	8%	17	23	2
50～69館	81	13%	6	73	2	61	10%	1	53	7	74	18%	7	56	11	33	6%	3	20	10
30～49館	123	19%	5	84	34	135	21%	6	74	55	91	22%	6	37	48	97	19%	4	44	49
10～29館	243	38%	30	72	141	247	39%	26	38	183	123	30%	20	28	75	174	34%	25	27	122
2～9館	65	10%	4	14	47	90	14%	6	11	73	52	13%	11	2	39	118	23%	17	9	92
公開本数合計①	**634**	100%	108	302	224	**635**	100%	84	233	318	**415**		78	160	177	**514**		114	125	275
			17%	48%	35%			13%	37%	50%			19%	39%	43%			22%	24%	54%
49館以下で公開された作品本数	431					472					266					389				
うちミニシアターのみでの上映作品	222	52%				311	66%				162	61%				263	68%			
その他（都内12館での上映など）	89					74					125					128				
外国映画公開本数合計②	**723**					**709**					**540**					**642**				

日本映画①＋外国映画①	**1290**					**1173**					**855**					**1091**				
日本映画②＋外国映画①	**1465**					**1348**					**1022**					**1292**				

主な特集を挙げてみる。

シネマコンプレックスを中心に上映される「午前十時の映画祭」が復活して、2023年は『アラビアのロレンス／完全版』『エクソシスト ディレクターズカット版』、『グリーンマイル』や『ジュラシック・パーク』『ロスト・ワールド／ジュラシック・パーク』『ジュラシック・パーク III』といった超大作から『ミツバチのささやき』まで、多彩で魅力的な作品が67館で上映された。また、「BOND60 007 4Kレストア 10作品」は、シネマコンプレックスのみ約50館で、007シリーズ10作品が上映されている。

東北新社配給（企画協力：東京テアトル、武蔵野興業）で全国に巡回されている「12ヶ月のシネマリレー」は、2023年に入って『ラスト・エンペラー』『薔薇の名前』『カラヴァッジオ』『マリリンとアインシュタイン』など80年代のヒット作を上映している。

昨年亡くなったJ=L.ゴダール監督を追悼する「追悼 ジャン=リュック・ゴダール映画祭」や、イオセリアーニ監督の主要作品を一挙上映する「オタール・イオセリアーニ映画祭　ジョージア、そしてパリ」（イオセリアーニ監督も2023年12月に亡くなった）、久しぶりの上映となった「ジョン・カサヴェテスレトロスペクティヴ リプリーズ」や「ジャン・ユスターシュ映画祭」、「みんなのジャック・ロジェ」、韓国映画の巨匠「イ・チャンドンレトロスペクティブ」等々…。実に多様な特集上映が次々に行われ、全国に巡回されている。旧作の特集上映が盛んに行われるという現象は、日本特有のものではなく、ヨーロッパでも同様であり、コロナ後の映画館で若い観客を拡大する一助ともなっているようである。

旧作のリマスター版のリバイバル公開も好調で、1930年代の作品から2000年代初頭のミニシアター系のヒット作まで、多彩な作品が公開され、映画ファンを集めている。

→fig.11

2023年の主な特集上映

午前十時の映画祭『アラビアのロレンス完全版』ほか
12ヶ月のシネマリレー 『ラストエンペラー 4Kレストア版』ほか
BOND60 007 4Kレストア 10作品
インアファナル・アフェア 4K 三部作
ワールド・ブルース・リー・クラシック2023（5作品）
追悼　ジャン=リュック・ゴダール映画祭（9作品）
オタール・イオセリアーニ映画祭　ジョージア、そしてパリ（21作品 ※短篇含）
シャンタル・アケルマン映画祭2023（5作品）
ジャン・ユスターシュ映画祭（4作品）
ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー傑作選
ロバート・アルトマン傑作選
没後60年 ジャン・コクトー映画祭
イ・チャンドン レトロスペクティヴ4K（6作品）
ラース・フォン・トリアー レトロスペクティブ2023
ウルリケ・オッティンガー ベルリン三部作
メーサーロシュ・マールタ監督特集上映（5作品）
ジョン・カサヴェテスレトロスペクティヴ リプリーズ（6作品）
再発見！ フドイナザーロフ　ゆかいで切ない夢の旅（5作品）
みんなのジャック・ロジェ（6作品※短篇含）

fig.11
2023年に公開された映画の分類

日本映画	2023	2022	2020	2019
一般映画新作（劇映画）	384	358	304	380
一般映画新作（アニメーション）	93	85	63	94
ドキュメンタリー	84	77	60	71
ODS	23	18	13	32
特集上映（旧作デジタルリマスター版含む）	72			
日本映画合計①	**656**	**538**	**440**	**577**
上記の他、公開館数1館（短篇・若手・その他）	86	101	42	73
日本映画合計②	**742**	**639**	**482**	**650**

外国映画	2023	2022	2020	2019
一般映画新作（劇映画）	304	307	272	330
一般映画新作（アニメーション）	25	18	16	16
ドキュメンタリー	55	62	33	55
ODS	53	37	31	47
旧作デジタルリマスター版（劇映画）	43	51	14	35
特集上映（旧作デジタルリバイバル）26企画（2023）	154	160	49	31
外国映画合計①	**634**	**635**	**415**	**514**
上記の他、1館（あるいは2、3館）のみでの上映	89	74	125	128
外国映画合計②	**723**	**709**	**540**	**642**
日本映画①＋外国映画①	**1290**	**1173**	**855**	**1091**

興行収入10億円を越える映画／10億円以下の映画

2023年、興行収入が10億円を越える映画は日本映画・外国映画合わせて49本（2022年41本、2021年37本、2019年65本）となった。本数では全公開本数1232本の4.0%、興行収入では、日本映画約980億円、外国映画483.3億円で合計1463.3億円となり、全興行収入の66.1%（2022年72%、2021年62.2%）を占めている。

→fig.12, 13, 14, 15, 16

fig.12
2023年興行収入10億円以上作品［日本映画］

順位	公開月	作品名	興行収入（億円）	配給会社
1	22/12月	THE FIRST SLAM DUNK	158.7	東映
2	4月	名探偵コナン 黒鉄の魚影	138.8	東宝
3	7月	君たちはどう生きるか	88.4	東宝
4	7月	キングダム 運命の炎	56	東宝/SPE
5	11月	ゴジラ-1.0	55.9	東宝
6	9月	ミステリと言う勿れ	48	東宝
7	4月	劇場版『TOKYO MER〜走る緊急救命室〜』	45.3	東宝
8	4月	映画ドラえもん のび太と空の理想郷	43.4	東宝
8	2月	「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ	41.6	東宝/アニプレックス
10	5月	劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERiOD	29.2	バンダイナムコフィルムワークス バンダイナムコオンライン/東映
11	3月	わたしの幸せな結婚	28	東宝
12	4月	東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編 ―運命―	27.1	WB
13	22/12月	ラーゲリより愛を込めて	26.7	東宝
14	1月	レジェンド&バタフライ	24.7	東映
14	8月	しん次元！ クレヨンしんちゃんTHE MOVIE 超能力大決戦 ―とべとべ手巻き寿司―	24.7	東宝
14	11月	鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎	24.7	東映
17	22/12月	Dr.コトー診療所	24.4	東宝
18	3月	シン・仮面ライダー	23.4	東映
18	6月	東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編 ―決戦―	23.4	WB
20	11月	翔んで埼玉 〜琵琶湖より愛をこめて〜	23.3	東映
21	6月	怪物	21.5	東宝/GAGA
22	6月	憧れを超えた侍たち 世界一への記録	17.9	アスミック・エース/J SPORTS
23	9月	映画プリキュアオールスターズF	14.6	東映
24	9月	沈黙の艦隊	13.7	東宝
25	22/12月	月の満ち欠け	13	松竹
25	2月	BLUE GIANT	13	東宝ライツ事業部
27	5月	岸辺露伴 ルーヴルへ行く	12.5	アスミック・エース
28	10月	アナログ	12.2	東宝/アスミック・エース
29	11月	首	11.6	東宝/KADOKAWA
30	9月	こんにちは、母さん	11.1	松竹
31	22/12月	かがみの孤城	10.9	松竹
32	1月	映画 イチケイのカラス	10.8	東宝
33	9月	劇場版シティーハンター 天使の涙（エンジェルダスト）	10.6	アニプレックス
34	3月	なのに、千輝くんが甘すぎる。	10.1	松竹
		合計	980	

―「日本映画産業統計」（日本映画製作者連盟）参照

fig.13
2023年興行収入10億円以上作品［外国映画］

順位	公開月	作品名	興行収入（億円）	配給会社
1	4月	ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	140.2	東宝東和
2	7月	ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE	54.3	東和ピクチャーズ
3	22/12月	アバター：ウェイ・オブ・ウォーター	43.1	WDS
4	5月	ワイルド・スピード/ファイヤーブースト	38.3	東宝東和
5	6月	リトル・マーメイド	34	WDS
6	8月	マイ・エレメント	27	WDS
7	6月	インディ・ジョーンズと運命のダイヤル	26	WDS
8	2月	BTS：Yet To Come in Cinemas	25.6	エイベックス・ピクチャーズ
9	9月	ホーンテッドマンション	21.7	WDS
10	8月	MEG ザ・モンスターズ2	14.6	WB
11	5月	ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー：VOLUME3	13.2	WDS
12	8月	トランスフォーマー/ビースト覚醒	12.9	東和ピクチャーズ
13	6月	スパイダーマン：アクロス・ザ・スパイダーバース	11.1	SPE
14	2月	タイタニック：ジェームズ・キャメロン25周年3Dリマスター	10.9	WDS
15	9月	ジョン・ウィック：コンセクエンス	10.4	ポニーキャニオン
		合計	483.3	

―「日本映画産業統計」（日本映画製作者連盟）参照

fig.14
2023年興行収入上位20作品

順位	公開月	作品名	興行収入（億円）	配給会社
1	22/12月	THE FIRST SLAM DUNK	158.7	東映
2	4月	ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	140.2	東宝東和
3	4月	名探偵コナン 黒鉄の魚影	138.8	東宝
4	7月	君たちはどう生きるか	88.4	東宝
5	7月	キングダム 運命の炎	56	東宝/SPE
6	11月	ゴジラ−1.0	55.9	東宝
7	7月	ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE	54.3	東和ピクチャーズ
8	9月	ミステリと言う勿れ	48	東宝
9	4月	劇場版『TOKYO MER〜走る緊急救命室〜』	45.3	東宝
10	4月	映画ドラえもん のび太と空の理想郷	43.4	東宝
11	22/12月	アバター：ウェイ・オブ・ウォーター	43.1	WDS
12	2月	「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ	41.6	東宝/アニプレックス
13	5月	ワイルド・スピード/ファイヤーブースト	38.3	東宝東和
14	6月	リトル・マーメイド	34	WDS
15	5月	劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERiOD	29.2	バンダイナムコフィルムワークス バンダイナムコオンライン/東映
16	3月	わたしの幸せな結婚	28	東宝
17	4月	東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編 ―運命―	27.1	WB
18	8月	マイ・エレメント	27	WDS
19	22/2月	ラーゲリより愛を込めて	26.7	東宝
20	6月	インディ・ジョーンズと運命のダイヤル	26	WDS
		合計	**1009.8**	
		2023年興行収入	**2214.8**	
		2023年興行収入10億円以上作品	**1463.3**	
		興行収入10億円以上作品の割合	**66.1%**	

fig.15
興行収入10億円以上の作品/興行収入10億円未満（2023）

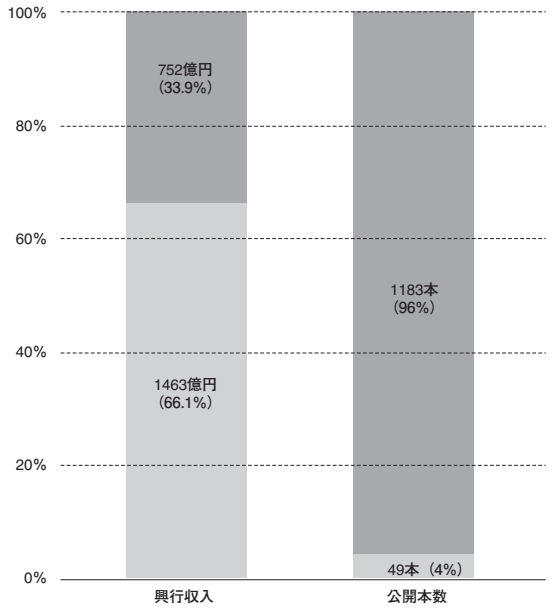


fig.16
興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画（2013-2022）

興行収入（億円）

		10億円以上		10億円未満	
	全体	興収	割合	興収	割合
2014	2,070	1,411	68.2%	659	31.8%
2015	2,171	1,595	73.5%	576	26.5%
2016	2,355	1,763	74.9%	592	25.1%
2017	2,286	1,618	70.8%	667	29.2%
2018	2,225	1,563	70.2%	662	29.8%
2019	2,611	2,009	76.9%	602	23.1%
2020	1,433	912	63.7%	521	36.3%
2021	1,619	1,006	62.2%	613	37.8%
2022	2,131	1,532	71.9%	599	28.1%
2023	**2,215**	**1,463**	**66.1%**	**752**	**33.9%**

公開本数

		10億円以上		10億円未満	
	全体	本数	割合	本数	割合
2014	1184	49	4.1%	1135	95.9%
2015	1136	61	5.4%	1075	94.6%
2016	1149	61	5.3%	1088	94.7%
2017	1187	62	5.2%	1125	94.8%
2018	1192	54	4.5%	1138	95.5%
2019	1278	65	5.1%	1213	94.9%
2020	1017	25	2.5%	992	97.5%
2021	959	37	3.9%	922	96.1%
2022	1143	41	3.6%	1102	96.4%
2023	**1232**	**49**	**4.0%**	**1183**	**96.0%**

―fig. 15, 16ともに「日本映画産業統計」（日本映画製作者連盟）参照